

## 農業農村整備事業における建設コンサルタントの役割について

建設コンサルタントとは、建設作業をするときに、その計画をコンサルタントする仕事です。主に、行政の建設発注に対して、測量、地質調査、設計などを行い、建設事業の計画を立てます。実際に事業を行うのは建設コンサルタントではなく、ゼネコンやメーカーなどの施行者です。それゆえ、建設コンサルタントは「建設に必要な知識を持っている集団」だと言えます。

建設コンサルタント事業を農村で行う場合、主に三つの事業があります。

一つ目は農業水利事業です。農業用水の安定供給と排水の改良を図るため、ダムや用排水路を整備する事業です。日本の基幹的水利施設の二割が耐用年数を超過しているので、それらをどう管理、補修していくかが課題となっています。

二つ目は農地防災事業です。古くなった施設を修繕する、地すべりへの対策を行うなどして、農地の安全を守る事業です。昨今の集中豪雨にも耐えられる、ため池の整備は急務となっています。

最後は農地整備事業です。これは水田整備事業とも呼ばれ、水田などのいわゆる農地を整備することが仕事です。

これらを総合的に行うことで農村での建設コンサルタント事業が行われています。

## 授業で心に残ったキーワード、その理由

### 「技術者倫理」

自分は技術者倫理という言葉が心に残りました。キーワードそのものは目新しそうなものでもないのですが、内容が想像つかなかったので記憶に残りました。

技術者倫理が生まれた原因は、科学技術の発展です。科学技術の発展により一般の人々の生活に欠かせない存在となった技術者ですが、その発展スピードが早すぎるので、法律規範が追い付けていません。そこで必要とされるのが技術者倫理であると言えると思います。

技術者倫理の内容のどれもが、技術者として、人としてやるべき当然のことばかりです。自分たちの専門分野を追及することは当然ですが、専門性以外にも求められる部分は存在するのだと再認識しました。よりよい仕事をするためには、自分の専門を追及しつつ、俯瞰的な視点を持って行動することが必要なのだと感じました。

自分はこれから専門分野というものを持つようになり、それについて深く学んでいくこととなります。専門を究めつつ、全体を把握しながらよりレベルの高い活動を行っていきたいと思いました。

参考：パシフィックコンサルタンツ株式会社ホームページ  
授業資料